

# 具志川市史 第二卷

新聞集成（大正・昭和戦前編）

目次

口絵		
発刊のことば	照屋寛吉	一七
市史第二巻の刊行にあたって	翁長維行	一九
発刊によせて	當銘由親	二一
凡例		二二
目次		二三
収録記事目次		二七
証言記録目次		二八
解説		六三
収録記事	池宮正治	六五
社会編		
教育文化編		
政治経済編		
附録		
用語解説		三四
人物紹介		四一
具志川関係不採用記事目録		四六
大正・昭和戦前の新聞にみる具志川関係略年表		四七
索引		八〇
証言者一覧		八三
編集後記		八五
市史編さん委員会・編さん事務局		八四
		八一
題字	比嘉恒吉	
さし絵	与那覇朝大	







折抱抱えた偽税務署員 一二四  
 沖繩造士館の設立に中谷氏のヒット 一二四  
 ラヂオの無い村へ 放送局から贈り物 一二五  
 主要十三路線の県道路認定 一二五  
 太田先生寿像除幕式 一二五  
 孝行勇士／陣中から送金 一二六  
 一度砲弾を潜ると心も落ち着く 一二六  
 法廷便り 一二七  
 町村便り 一二七  
 鴨に食はれて稲苗不足訴ふ 一二七  
 十一年度県税完納村字表彰式昨日挙行 一二七  
 断然女子が多い 本県の人口増加す 一二八  
 本県の実状に即し方面事業を確立す 一二九  
 宮古・八重山でも馬の去勢 一二九  
 裁判所具志川出張所 村有地に移転 一三〇  
 軍用候補馬選定日割決定 一三一  
 六千五百円の螟虫駆除補助 一三一  
 本県出身の英霊八柱、合祀さる 一三二  
 災害復旧高知事業補助金 一三二  
 南洋行作業夫身体検査日割 一三二  
 札束よりも銀貨が好き 一三二  
 大麻頒布手数料 一三二  
 靖国神社臨時大会に参列の光栄に浴す 一三三  
 武勳輝く郷土兵 一三四  
 輝く武勳を土産に二十四勇士帰る 一三四  
 広告（歓迎会案内） 一三四  
 南洋行作業夫身体検査日割 一三五  
 軍用駄馬の公売条件 一三五  
 候補馬は優先的に購買 一三五  
 長期戦の決意固く 頼もし郷土兵 一三六  
 七十三歳の老翁 南国沖繩から上京 一三六  
 十二年度災害耕地事業築へ補助 一三六  
 軍用馬の購買出品上の注意 一三六  
 嘉手納署管下消防連合演習 一三七  
 製糖場へ落雷出火 一三七  
 七千名を動員 来月下旬から簡閲点呼 一三八  
 軍馬の購買あすから開始 一三八  
 辞令 一三八  
 人の噂 一三八  
 軍用馬好値に購買さる 一三九

九十歳以上の世界 女の天下です 一四〇  
 海外から慰問金 一四〇  
 時局の波に踊る芭蕉布 一四〇  
 農山漁村行事 一四〇  
 軍事援護相談所 一四一  
 県下方面委員町村定数 一四一  
 村の篤志家 一四二  
 六月一日に愛馬日 一四二  
 中頭郡徴兵検査開始 一四二  
 出征馬へ慰問黒糖 一四二  
 勇士の家庭を巡ってお手伝ひ 一四二  
 非常時下の三等局長会議 一四四  
 中央軍事援護相談所委員 一四四  
 甘蔗・水稻の螟虫駆除 一四五  
 銃後・この赤心 一四五  
 軍用候補馬選定開始さる 一四五  
 銃後支援学童も奮起 一四五  
 中頭具志川にチブス流行 一四五  
 具志川村（中頭）に 一四六  
 腸チブス爆発的流行 一四六  
 更に二十五ヶ村で 一四六  
 貯蓄奨励講演懇談会 一四六  
 一万三千の全村民へ一斉に予防注射 一四七  
 健康相談所 一四七  
 議員区長が風紀取締 一四七  
 三千の消毒液で管下全村一斉消毒 一四八  
 話の卵 一四八  
 軍用候補馬鍛錬会 一四九  
 死亡広告 一四九  
 譽の戦傷勇士 一五〇  
 靖国神社に合祀 一五〇  
 支那事変 第五回戦没者論功行賞 一五〇  
 銃後善行表彰式 一五〇  
 青年学校指導／郷軍の功労者 一五〇  
 日米親善の秋の集り 一五〇  
 戦前から写真便り 一五一  
 沖繩県出身第八陣進発 一五一  
 沖繩の高齢者 一五一

昭和14年  
 沖繩の表彰式 一五二  
 僕も元気です 一五二  
 武勳輝く郷土勇士 一五二  
 託児事業講習会 一五二  
 無免許蹄鉄工に組合が取締方陳情 一五三  
 実績優秀なる軍用馬鍛錬班 一五三  
 陸軍大臣代理官弔問 一五三  
 満州農業移民十三名採用 一五三  
 ペルーから慰問金 一五四  
 郷土二十勇士 きのお晴れの帰還 一五四  
 災害復旧事業補助 一五四  
 螟虫一斉駆除本明日施行 一五五  
 青年は多く南洋へ 志願兵も少い 一五五  
 五百万円貯蓄期し市町村割当決定 一五五  
 日焼けに輝く勇士らの顔 一五六  
 豚伝染病各地に爆発的蔓延 一五六  
 中頭郡は不良 一五七  
 生田徴兵官慨嘆 一五八  
 靴の中から消えた五百円 一五八  
 チブス防遏の衛生主任表彰 一五八  
 天井裏騒動ケリ犯人は鼠と断定 一五九  
 大陸に建設の鉄打ち込む 一五九  
 人事調停法本県の委員 一五九  
 警察部長賞嘉手納署員に 一六〇  
 県出身純忠の六十九柱 一六〇  
 輝やく名譽の金鶏勳章 一六〇  
 武勳土産に二十九勇士 晴れの帰還 一六一  
 花やかな都会に憧る少女 一六一  
 晴れの帰還／きのふ三十四名 一六一  
 中頭畜産組合 一六一  
 山羊皮二十七枚供出 一六一  
 張り切る土の戦士 一六一  
 けふ先遣隊出發 一六一  
 南洋開發勤勞隊 一六一  
 遭難の墨洋丸乗船 一六一  
 県社会課が大量募集 一六一  
 落下傘模型少年が拾ふ 一六二  
 県人無事救助さる 一六二  
 一六三

町村道十三線県道編入認定  
 着のみのまま涙の上陸  
 軍用候補馬鍛錬会表彰  
 百万円にせまる  
 本県の自作農資金貸付高  
 低級な壮丁の学力  
 南米に行け  
 武勲土産に晴れの帰還  
 墨洋丸の遭難者三九名  
 昨日悲劇を胸に郷土へ  
 簡易保険  
 戸数割一戸平均毎年増の傾向  
 北満のハルビンで視察団との奇遇  
 本年春期螟虫検収日割  
 物言わぬ感激の握手  
 棧橋にあふれて どっと帰還兵  
 広告(久場医院開院)  
 飲食営業が愛国貯金  
 来社  
 故郷を目前に船中で急死  
 酒精原料芋切干  
 今年の甘藷切干供出計画決定す  
 赫々武勲胸に郷土三十九勇士  
 武勲を土産に晴れの帰還  
 銃後奉公会の  
 市町村割当助成金決る  
 殊勲の警防団長  
 あす喪の凱旋  
 延期中の切干甘藷  
 供出期日決定  
 金買上げに勸銀大童  
 あづま・大和両社の中頭線のバス統制  
 小石混入の昆布  
 証明書を発給し公平な配給  
 郷土三十三勇士晴れの帰還  
 芋切干千二万貫/本月初出荷  
 おお武勲の勇士等  
 御苦労だったぞ!  
 時局下緊張の青校教練査閲

浦崎少尉以下二十四勇士へ  
 燦たる武勲の賞賜  
 英霊16柱迎え母校の慰霊祭  
 第一次目標二百萬円の  
 国民貯蓄成績順朝  
 中頭、国頭の河や海で  
 広範囲な青酸加里密漁事件  
 おお御苦労さま  
 郷土四十九勇士  
 農山漁村行事  
 武勲、永へに薫る  
 殊勲の金鶏勲章  
 酒精原料甘藷  
 銃後奉公会へ助成金  
 武勲の二十八勇士  
 御苦労だった  
 芋切干供出係員派遣  
 満州事情紹介の講演会と座談会  
 温かい人調法に抱かれ  
 一家和平へ還る  
 陸海の郷土七勇士  
 青春の情熱を打込み  
 満州事情を紹介  
 公告(沖縄県海外協会)  
 海協の陣容整ひ  
 南洋渡航幹旋開始  
 晴れの帰還/きのふ十七勇士  
 タクシー営業無許可で譲渡  
 大陸灼けた郷土44勇士  
 きのお輝く帰還  
 武勲を土産に郷土42勇士  
 きのおふ晴れの帰還  
 おおご苦労様  
 武勲の郷土勇士  
 法廷便り/自動車運送違反  
 主人の居ない札束  
 保育所の普及  
 薬で魚を捕る一味三十六名  
 晴れの帰還/きのふ十九勇士  
 ノモハンの勇士等

昭和15年  
 広告(具志川村役場)  
 広告(あづま自動車商会)  
 広告(沖縄療術師会)  
 新嘗祭献穀の奉耕者決る  
 譽の優勝旗は津花波組合獲得  
 町村便り  
 具志川村献穀粟播種式  
 新嘗祭献粟御播種式執行  
 晴れの帰還/きのふ八勇士  
 町村便り  
 男を凌いで女工が流出  
 具出身の先亡者 北米で追悼会  
 武勲を土産に晴れの帰還  
 白衣の勇士たち皆大元氣  
 第一線の戦友を慰問して下さい  
 可哀想だった独人  
 沖繩便り  
 新崎軍医中尉外十三勇士が  
 今朝晴れの帰還  
 字具志川の闘牛大会  
 幼稚な畜産業振興を期す  
 正月遊びを廃し勇壮な闘牛  
 広告(出征軍人遺家族慰安闘牛大会)  
 郷土勇士/今朝晴れの帰還  
 小学生も混って賭博遊び  
 英霊を安らかに  
 名譽の戦死  
 馬匹去勢/執行日割  
 豚疫予防注射  
 来月の実施日割  
 尽忠報国の決意を宣揚す  
 徴兵検査日割決る  
 各郡市毎に思想指導者講習  
 郷土61勇士還る  
 重態の母に内密で応召  
 郷土十五勇士  
 今朝晴れの帰還

辞令	ニユース・ビーコン	二〇六	興亜の十柱けふ凱旋	二二八	武勳に輝く郷土十六勇士	二三一
ニ二〇勇士帰還	二〇六	死亡公告(具志川村葬)	二二八	新嘗祭献粟／拔穂式を執行	二三一	
町村便り	二〇六	武勳土産に郷土十九勇士	二二八	郷土二十六勇士 赫々武勳土産に	二三一	
広告(オハラ石鮫)	二〇八	沖縄県戦病傷死遺家族慰問金報告	二二八	酒精原料甘藷供出補助交付	二三二	
肉牛と山羊皮の供出懇談会	二〇八	武勳28勇士／昨日帰還	二二九	水稻被害は風害より潮害	二三二	
移植民事務嘱託 市町村に設置	二〇八	初夏の郷里へ武勳53勇士	二二九	迷信に縛られた休閑地を開発	二三三	
武勳を土産に郷土三十六勇士	二〇九	具志川郵便局 電信事務取扱	二二〇	八月中軍用保護馬鍛錬会	二三三	
善隣齒科医院 真教寺前に開業	二〇九	躍進義勇軍	二二〇	興亜58勇士帰る	二三三	
誉の論功行賞	二〇〇	興亜の前衛部隊 本年五百名派遣	二二〇	大陸開拓を応援	二三四	
赫々武勳の郷土二十勇士	二〇〇	八勇士帰還	二二〇	法廷便り	二三四	
切千藪供出補助金交付	二〇〇	闇の防止宣伝 ビラ三万枚配付	二二〇	有効章親授式	二三四	
町村便り	二〇〇	けふから二日間蚊虫一斉駆除	二二〇	傷痍軍人夏期修養会	二三五	
義勇軍を募集	二〇〇	誉れの恩賞に輝く 本県から三十三柱	二二三	町村便り	二三五	
嘉陽伍長ら喪の凱旋	二〇〇	武勳13勇士 きのふ晴れの帰還	二二三	秘露避難民きのふ安着	二三五	
郷土八勇士／昨朝晴れの帰還	二〇〇	軍用保護馬鍛錬猛訓練	二二三	具志川に流脳騒ぎ	二三七	
武勳の帰還勇士	二〇〇	郷軍の所在不明者	二二三	謹告(奥田敵商店)	二三七	
保護馬飼養／補助金を交付	二〇一	具志川局	二二四	武勳の勇士	二三八	
保護馬飼料一俵宛配給	二〇一	武勳土産に郷土勇士帰還	二二四	徳田政雄氏厳父	二三八	
節米運動の趣旨徹底	二〇二	種馬の検査 七月廿四日から施行	二二四	話の卵	二三八	
不滅の武勳に輝く	二〇二	町村電話網整備	二二五	軍用保護馬普通鍛錬	二三九	
正榮郷土部隊二陣帰る	二〇二	六月出生以降の幼児に綿ネル	二二五	興亜百四十勇士帰還す	二三九	
馬の去勢	二〇二	名譽の戦死者	二二五	軍事援護相談所設置補助	二四〇	
万歳と旗波は揺れ	二〇三	第二次防空訓練実施要綱	二二六	馬を狙って盗み走る	二四〇	
正榮郷土部隊三陣帰る	二〇三	県産鞍馬の鍛錬 格段の努力が必要	二二六	人騒がせな疑似流脳	二四〇	
海外伊集組合設立	二〇三	郷土十三勇士 昨朝晴れの帰還	二二七	県出身英霊百二十二柱	二四〇	
郷土正榮七四勇士	二〇四	武勳に輝く郷土勇士 昨朝帰還	二二七	靖国神社に新合祀	二四〇	
市町村長、署長と節米切符制	二〇四	戦没者遺族教化指導講習会	二二七	郷土三十二勇士	二四一	
赫々の武勳土産に	二〇四	砂糖と燐寸の切符制	二二七	会員三千人獲得	二四一	
昨日郷土百勇士帰る	二〇五	日の丸作業	二二八	余栄永久へに薫る	二四二	
「アロハの楽園」布哇から	二〇五	分区旗樹立式	二二八	新嘗祭献穀	二四二	
母県視察の観光団来る	二〇五	義勇軍教練指導員	二二八	すき講習に女子青年の活躍目覚し	二四三	
武勳勇士を迎へ港で盛大な歓迎式	二〇六	百三十六勇士帰る	二二九	八百万円貯蓄目標へ 県民の愛国進軍	二四三	
忠魂永へに輝く	二〇六	46勇士帰る	二二九	新嘗祭献納 水稻、粟收穫終る	二四三	
本年度の簡閲点呼	二〇六	国民精神文化長期講習会	二二九	死亡公告	二四四	
武勳土産に晴れの帰還	二〇六	幸運の白日夢(四)	二二九	武勳の五五勇士	二四四	
武勳の英霊凱旋	二〇七	銃後奉公会助成金内訳	二三〇	天願康次郎氏母堂	二四四	
死亡公告(具志川村葬)	二〇七	各地の被害・倒壊夥し	二三〇	夜盗中に荒され	二四五	
雨の郷土にきのふ45勇士帰還	二〇七	献穀粟刈取式	二三〇	諸に惨憺たる被害	二四五	
英霊の凱旋	二〇八	国勢調査の事務訓練会	二三一	廣告(海外及南洋行移民取扱営業	二四五	
		軍用保護馬 七月の普通鍛錬	二三一	事務所移転)	二四五	



再会の喜びを胸に 二四五  
 英霊八柱凱旋 二四六  
 夜盗中駆除方法を県農が指導 二四六  
 死亡広告(具志川村葬) 二四六  
 興亜の人柱 二四六  
 郷土二十五勇士 昨日晴れの帰還 二四六  
 献穀米粟受納式 けふ状況の途へ 二四七  
 隣保班が中心となり勤勞奉仕 二四七  
 赫々武勲土産に 二四七  
 郷土勇士昨日晴れの帰還 二四七  
 二千六百年奉祝軍馬騎乗大会 二四八  
 大陸に雄飛せよ 二四八  
 県出身百四十五勇士に 二四八  
 輝く論功行賞の御沙汰 二四八  
 灯油の割当十月分 二四九  
 ”生めよ殖せよ”国の宝 二四九  
 赫々の武勲土産に 二四九  
 赫顔郷土部隊帰る 二五〇  
 大騎乗県代表 二五一  
 北米桑港の空手武勇伝 二五一  
 翼賛会支部委員 二五一  
 献穀米・粟上納式に参列し 二五一  
 地下足袋／警防団に特別配給 二五二  
 軍用保護馬 二五二  
 十一月中鍛錬日割 二五二  
 ゴム底布靴市町村別割当 二五二  
 広告(具志川村役場) 二五二  
 郷土四十勇士 武勲土産に昨日帰還 二五四  
 同じ受けるなら母国の徴兵を 二五四  
 「世紀の感激」胸に本県奉祝部隊帰県 二五四  
 移植民座談会 二五五  
 大陸の花嫁47名けふ巣立つ 二五五  
 家政高女の愛国子女団 二五五  
 回覧板 二五六  
 法廷便り 二五六  
 二カ所の災害復旧地区補助 二五七  
 赫々武勲の郷土勇士 二五七  
 神饌献穀式の本県代表三青年決る 二五七  
 広告(糖業問題演説会) 二五八  
 県下各界層の人物網羅 二五八

御苦勞様郷土勇士 二五九  
 41遺族に特別賜金 二五九  
 軍用保護馬鍛錬23頭に受賞 二五九  
 武勲・永久に輝やく 二六〇  
**昭和16年**  
 靖国の対面勲児決定す 二六〇  
 下部組織を整備強化 二六一  
 遺家族副業講習会 二六一  
 沖繩特信 二六一  
 父の魂待つ靖国へ 二六一  
 保護馬の衛生検査 二六一  
 理事七十名推薦 二六二  
 町村支部理事推薦 二六二  
 郡協力会議は下旬 二六三  
 靖国の神と鎮る 二六三  
 沖繩部隊が帝都一番乗り 二六三  
 軍用保護馬普通鍛錬 二六三  
 第二十八回論功行賞発表 二六五  
 傷痍軍人会の班結成式日割 二六五  
 牛馬耕は妾たちにも出来る 二六六  
 靖国神社新嘗祭 二六六  
 故国へ! 横浜へ 二六八  
 輝く不滅の武勲 二六八  
**昭和17年**  
 貯蓄功績者表彰 二六九  
 聖戦の人柱 二六九  
 沖繩・鹿島両県のダバオ殉難者 二六九  
 中頭で翼選講演会 二六九  
 紙上面会室 二六九  
 神鎮もる武勲の忠霊 二七〇  
 大東亜戦の人柱 二七〇  
 簡閲点呼日割 二七〇  
 郡協力会議員更新 二七一  
 貯蓄は戦費だ頑張らう 二七一  
 羽毛報国者表彰 二七二  
 開拓団編成推進員設置 二七二

誉れの家に頼もし二女性 二七二  
 具志川の翼壯大会 二七三  
 南方戦線顔だより 二七三  
 役員選挙・具志川中川産組 二七三  
 軍人援護教化常会 二七四  
 青壮年登録 二七四  
 靖国の新嘗祭 二七五  
 海軍志願兵の徴募検査日割 二七五  
 飯米ッ供出督励 二七五  
 回覧板 二七六  
 面影を臉に秘めて 二七六  
 羽毛供出の功勞者に感謝状 二七六  
 翼壯に運営指定団 二七七  
 僕も立派な軍人に 二七七  
 知らず躍進日本の姿 二七八  
 家計簿記入者 二七八  
 豚の防疫陣 二七八  
 病害虫駆除予防 二七九  
 実地指導講習会 二七九  
 僕らは元氣 二七九  
 敢闘する農婦 二七九  
 澱粉供出打合 二八〇  
**昭和18年**  
 銃後の必勝訓⑦ 二八一  
 百万点は優に突破 二八一  
 名譽の郷土勇士 二八一  
 修練納上参加者決る 二八一  
 靖国神社参拝遺児決る 二八一  
 興亜挺身青年講習会に参加 二八一  
 御下賜金の伝達 二八三  
 県下に百三十一ヶ所 二八三  
 春期農繁期保育所設置 二八三  
 壮丁に注意喚起 二八四  
 遺骨帰る 二八四  
 村長自ら参加の構へ 二八四  
 県が督励／開拓団編成 二八五  
 神と鎮まる純忠の英霊 二八五  
 戦へ貯蓄総進軍 二八五

大陸の花嫁幹旋	二八六	郷土放送	三一四
翼賛会支部常務委員決る	二八六	軍属名譽の戦死	三一六
陸軍論功行賞	二八七	傷痍軍人の健康診断	三一六
簡閲点呼日割	二八七	保護馬部班競技会	三一六
健民強兵目指し	二八七		
県下に健保組合設立促進	二八七		
本年度千三百戸	二八八		
県下の満州分村計画	二八八		
教化指導講師選定	二八八		
島尻郡下の甘藷供出懇談会	二八八		
簡保増加を運動	二八八		
従軍看護婦採用者決る	二八九		
衣料節約へこの誉れ	二八九		
那覇・首里市、中頭郡	二八九		
翼賛壮年団の役員きまる	二九〇		
中頭翼壯団初の総務会	二九〇		
衣料切符献納	二九〇		
中頭郡翼壯今年度事業	二九一		
甘藷供出不成績	二九二		
常務委員決る 翼賛会郡市支部	二九二		
県が講習会で女子拓殖普及	二九二		
銅胸像も応召	二九二		
今年の体力検査	二九三		
中頭・国頭両郡の翼賛会	二九三		
市町村の国債割当決る	二九三		
国債を買ひませう	二九四		
大豆供出へ完璧陣	二九四		
三期に分ける県の国保組合設立	二九四		
海軍志願兵奨励映写会巡回日割	二九五		
貯蓄殊勲甲にほまれの知事賞	二九五		
馬の健康診断	二九五		
組織整備さる 県翼賛壮年指定団	二九五		
中頭郡の大豆供出	二九六		
誉れの県出身勇士	二九六		
中頭郡の供出漸次可良	二九六		
種馬検査日割	二九七		
婦人の生活を向上	二九七		
第一回競犁会	二九八		
呼びかく銃後奉公	二九八		
農村へおくる巡回映画班	二九八		
		必勝生活へ突入 日婦中頭の決戦布陣	二九九
		征戦に散る	三〇〇
		創意を呼びかく	三〇〇
		お母さん教育	三〇〇
		陸軍論功行賞	三〇〇
		老勇士達の献金	三〇〇
		競犁会	三〇〇
		征戦に散る	三〇〇
		木材増産の殊勲甲	三〇〇
		神鎮まる郷土の英霊	三〇〇
		買ひませう！国債は弾丸	三〇〇
		国民健康保険組合 設置成績順調	三〇〇
		郡協力会議員決る	三〇〇
		算盤を鉄に代へ	三〇〇
		志喜屋先生出陣	三〇〇
		満州開拓座談会	三〇〇
		近く先遣隊出発	三〇〇
		鉄を執る傷痍勇士	三〇〇
		中頭郡の軍用保護馬競技会	三〇〇
		二十二日に執行 県護国神社の合祀祭	三〇〇
		再起す六戦傷勇士	三〇〇
		中頭地方増産完遂大会	三〇〇
		主食に芋の加工	三〇〇
		護国の英霊	三〇〇
		婦人協力して学童の体位向上	三〇〇
		四部門の研究で	三〇〇
		県議奉公会県政に協力	三〇〇
		食料は孤島本県のいのち	三〇〇
		馬と犁で増産援護	三〇〇
		芋の供出日指定	三〇〇
		逞しい食料増産突撃隊	三〇〇
		県下最初の犁友会	三〇〇
		航空機の制作費に献金	三〇〇
		護国の英霊	三〇〇
		尽忠録	三〇〇
		恩賞に輝く郷土勇士	三〇〇
		螟虫の検収	三〇〇
		男装で働く十九歳	三〇〇
		尽忠録	三〇〇
		貯蓄懇談会	三〇〇
		昭和19年	三〇〇
		警防初め	三〇〇
		護国の英霊	三〇〇
		貯蓄に示す赤誠	三〇〇
		“鉄”こそ農民の魂	三〇〇
		保有米も進んで供出	三〇〇
		大陸進駐の気迫高揚	三〇〇
		満州へ三千戸	三〇〇
		先づ十町村で食糧増産隊結成	三〇〇
		中頭の郡常会でも申合せ	三〇〇
		職指職員の行軍	三〇〇
		災害復旧の補助	三〇〇
		鍛錬を勤労に	三〇〇
		恩賞に輝く	三〇〇
		陣容を整えた「沖繩隊」	三〇〇
		送るぞ大量航空機職場に誓ふ	三〇〇
		十二農業会許可	三〇〇
		中頭郡移動常会	三〇〇
		本県から五十名	三〇〇
		満州報国農場隊に参加	三〇〇
		三千戸の職場すでに決る	三〇〇
		市町村食糧増産協議会	三〇〇
		征戦に散る	三〇〇
		山村を慰問	三〇〇
		説くより実践	三〇〇
		篤農を送って増産の重点指導	三〇〇
		食糧増産の推進力となる	三〇〇
		中頭郡地域勤報隊を動員	三〇〇
		農村慰問移動音楽舞踊大会	三〇〇
		護国の英霊	三〇〇
		靖国神社新嘗祭	三〇〇
		勇士に論功行賞	三〇〇
		体力検査日割	三〇〇
		貯蓄悠々と目標達成	三〇〇





軍人志望者養成の沖繩造士館を創設  
情実と背景に頼る教員の気持を打破す  
贈収賄一束  
教育疑獄事件行政処分を発令

昭和13年

小学校校長異動  
辞令  
中頭郡教育功労者十五名  
希望の沖繩造士館  
校旗輝く  
開南中学で感激の樹立式  
中頭郡児童の学力試験終了  
銃後の学童達  
ラヂオ文化から閉出し喰ふ学童  
金口木舌  
応召教員補充の三校に補助金  
知事の学校視察  
銃後に捧ぐ少年達  
辞令  
中木の教員定期異動  
青年学校費補助金  
辞令  
開南中学陣容強化  
金口木舌  
辞令  
第二次異動延期  
義務教育国庫負担金市町村割当  
宮古、八重山視学  
辞令  
校長、訓導小異動  
中頭教育会恒例の  
農場並校庭品評会  
辞令  
具志川校児童奉仕班  
金口木舌  
義務教育交付金  
十字路  
北米へ鹿兒立ち

教育使節・志喜屋氏  
金口木舌  
志喜屋校長渡米の壮途へ  
本年度前記の学校給食施設費  
文検予備試験パス  
暁の鍛錬  
辞令  
小学児童も銃後の護り  
邦人家庭の壁に愛国行進曲の歌詞を貼る  
沖繩県教育会民間会長説台頭

昭和14年

沖繩県小学校教員異動  
貸費生六名奨学会が選定  
辞令  
スポーツ中頭郡学童排籠球大会  
女子部を併設し農業科重視せよ  
義務教育費町村割当  
小学校長二十三名増棒近く発令す  
辞令  
精神文化講習長期受講者決定す  
代用教員十名任用替  
標準語励行委員統々設置  
小学校長十七名増棒  
農村の青年に読書や詩吟  
男女中等学生甘蔗の培土、除草  
郷土協会長に志喜屋氏  
家庭的事情を特に考慮  
小学校教員異動  
代用教員任用替  
代用教員三十名採用決定す  
学校給食施設費  
教授の方法研究を望む  
本社参観  
児童就学奨励町村割当  
秋の運動会  
中頭郡唱歌大会  
辞令

中頭理科展優秀作品十点到賞与  
中頭郡校長主席合宿修養会開催  
公告(工事請負公告)

昭和15年

沖繩観光座談会  
中頭部会総会功労者表彰  
天願校の記念行事  
市町村単位単位の道路愛護会  
奉祝一色の南島  
学校経営研究会今年の指定校  
愛馬進軍歌の新城氏  
改心の「校歌作曲」  
けふ書方展  
県下青年学校通年校は只四校  
特別市町村義務教育費  
奨学会長の後任に  
開南校長志喜屋さん  
公告(財団法人沖繩奨学会  
理事変更登記)  
青年学校に専任教員の充実期す  
小学校教員異動  
代用教員合格配置発表  
小学教員棒給  
十万七千の学童に  
布靴三万足を配給  
辞令  
本年度の学務行事  
寄生虫駆除費各学校へ交付  
辞令  
学校給食費各市町村へ割当交付  
学童へゴム底靴  
第二回分町村へ割当  
中頭郡教育会総会開催  
本年第二学期学校給食  
学童へ紺木綿布  
代用教員任用替きのふ発令さる  
辞令  
無言の教訓与ふ 志喜屋孝信氏語る



本県荒廢地の利用 四八六  
 逐鹿界の現勢 四八七  
 当間氏議員候補 四八八  
 中頭の逐鹿界 四八八  
 逐鹿界近況 四八九  
 中頭郡の選挙界 四九〇  
 知事具志川行 四九一  
 選挙界の動揺 四九一  
 中頭郡議員当選予想 四九一  
 中頭郡の県会議員当選 四九二  
 選挙余感 四九二  
 第二回県会議員選挙の結果 四九三  
 越来及具志川原勝負 四九三  
 通信省辞令 四九三  
 甘藷の改良 四九四  
 公有林部の造林成績 四九五  
 産業組合登記公告 四九五  
 産業組合登記公告 四九五  
 公告 四九五  
 (無限責任具志川村信用組合) 四九六  
 砂糖同業組合役員 四九六  
 本県民の負担力 四九六  
 朝武士氏の送別会 四九七  
 中頭砂糖会社設立計画 四九七  
 廣告 四九七  
 (県会議員補欠候補者推薦) 四九七  
 選挙投票所監視員 四九七  
 中頭郡の選挙形勢 四九八  
 特別廣告 四九八  
 (県会議員補欠候補者推薦) 四九八  
 特別廣告 四九八  
 (県会議員補欠候補者推薦) 四九八  
 投票は本日 四九八  
 開票は本日 四九八  
 むだばなし 四九九  
 又吉倫祥氏当選 四九九  
 大正二年宅地租収入歩合 四九九  
 廣告(沖台拓殖製糖株式会社) 五〇〇  
 首里・中頭有権者数 五〇一  
 大八回通常県会(第五日目) 五〇二

決算委員 五〇三  
 三十議員と略称 五〇三  
 中頭郡畜産品評会並増産奨励会 五〇四

大正3年

砂糖各村成績 五〇五  
 各村の製糖成績 五〇五  
 中頭各村農業教師会 五〇六  
 中頭郡の畜産 五〇七  
 各村の製糖成績 五〇七  
 沖台拓殖専務来県 五〇七  
 二月中砂糖成績 五〇八  
 優良種牛飼育奨励会 五〇八  
 三月中砂糖成績 五〇八  
 四月中砂糖成績 五〇九  
 牧畜奨励金下付 五〇九  
 国頭・中頭の保安林 五〇九  
 種牡牛貸付許可 五〇九  
 五月中黒糖成績 五〇九  
 中頭郡の製糖業(一) 五一〇  
 中頭郡の製糖業(二) 五一〇  
 中頭郡の製糖業(三) 五一〇  
 六月中黒糖成績 五一〇  
 沖台会社移住者募集 五一〇  
 七月中製糖成績 五一〇  
 中頭郡の展覧会 五一〇  
 具志川村品評会 五一〇  
 八月中黒糖成績 五一〇  
 中頭郡甘蔗予想高 五一〇  
 製糖成績 五一〇  
 品評会概表 五一〇  
 中頭の肥料講演 五一〇  
 第九回通常県会(第三日) 五一〇  
 第九回通常県会(第五日) 五一〇  
 第九回通常県会(第六日) 五一〇  
 砂糖懸賞成績 五一〇  
 甘蔗栽培法講習 五一〇  
 選挙有権者 五一〇

大正4年

特別廣告

(衆議院議員候補者推薦)  
 中頭郡投票立会人 五二二  
 大混乱の逐鹿戦 五二三  
 中頭郡投票数 五二四  
 一月中製糖成績 五二四  
 二月中製糖成績 五二四  
 昨年中の砂糖生産高 五二五  
 沖台拓殖製糖会社の近況 五二六  
 三・四月中製糖成績 五二六  
 四月製糖成績 五二七  
 産業諮問委員 五二七  
 農銀重役内定 五二七  
 農銀株主総会 五二八  
 五月中製糖成績 五二八  
 商業登記公告 五二八  
 中頭郡農作物被害 五二九  
 当間氏に辞職勧告 五二九  
 第十回通常県会(第二日目) 五三〇  
 第十回通常県会(第五日目) 五三〇  
 畜産品評会成績 五三一  
 中頭郡原勝負 五三一  
 開店廣告(丸天商店) 五三二

大正5年

中頭郡県税徴収成績 五三四  
 製塩業者組合準則 五三四  
 砂糖相場(二十九日) 五三四  
 新製糖会社 五三五  
 町村買い議員改選期 五三五  
 三郡の有権者 五三五  
 知事の巡視日割 五三六  
 中頭郡選挙主任会 五三六  
 知事の徴兵署視察 五三六  
 原料買収成績と賞与 五三七  
 製糖補助方針 五三七  
 中頭郡の製糖奨励 五三八

選挙監視員出張	五三八	中頭本年の稲作	五五五	中頭郡春蚕成績	五七二
中頭郡納税成績	五三九	県会議員宿所	五五六	中頭郡の製塩戸数	五七二
村会議員選挙	五三九	中頭郡原勝負日割	五五七	中頭郡納税成績	五七二
稲作立毛品評会	五三九	中頭郡戸数割徴収成績	五五七	中頭郡の公有林	五七三
農村通信	五四〇	中頭の県税雑種税成績	五五七	中頭の甘藷予想	五七三
種牡豚検査日割	五四〇	中頭郡村吏員会	五五八	中頭の甘藷予想	五七三
各郡の調査せる農村の副業	五四〇	第二期営業税成績	五五八	中頭郡の勸業費	五七三
中頭郡組合会議員	五四一			中頭郡納付成績	五七四
各村予算概況(七)	五四一	大正6年		中頭郡稲作成績	五七四
畑租収入成績(上)	五四二	吉成課長の産業視察談	五五九	中頭郡納付成績	五七四
農村通信	五四二	中頭郡の養蚕戸数	五五九	国税徴収成績	五七四
営業税収入成績	五四三	県下の有権者	五六〇	中頭の甘藷収量	五七五
又吉県会議員失格	五四三	中頭の秋蚕成績	五六〇	中頭郡の麦作	五七五
中頭郡甘蔗植付反別	五四三	沖台会社第五工場	五六〇	中頭郡の塩賠償金	五七五
町村基本財産(八)	五四四	中頭郡地価割比較	五六〇	中頭品評展覧会彙報	五七七
中頭郡堆肥舎建設費	五四四	専売局の奨励	五六〇	中頭郡基本財産	五七七
中頭堆肥品評会	五四四	中頭郡組合会	五六一	褒賞授与式	五七九
中頭畜産品評会	五四四	中頭郡組合費負担	五六一	中頭郡堆肥舎奨励金	五七九
各村費比較	五四五	中頭郡製糖成績	五六一	当間区長転籍	五七九
中頭郡組合会	五四五	投票所監視官任命	五六二	中頭畜産品評日割	五八〇
具志川村の山林と砂糖	五四六	予をして県会議員たらしめば	五六二	中頭堆肥品評日割	五八〇
中頭郡補欠選挙	五四六	本日の投票	五六二	中頭郡原勝負日割	五八〇
中頭県議有権者数	五四七	那覇・中頭郡の逐鹿戦	五六三	中頭金肥購入額	五八一
砂糖同業組合役員	五四七	豪雨と農家	五六三	中頭郡製糖改良	五八一
県下産糖予想	五四七	村会議員数	五六四	中頭原勝負差分	五八一
仲阿麻和利ガミ郡堆肥品評会	五四八	中頭各村予算	五六四	中頭郡原税完納	五八二
中頭県議補欠選挙	五四八	中頭県議選挙形勢	五六四	砂糖改良表彰式	五八二
伊波氏再起	五四八	三郡の候補者	五六五	中頭郡甘藷元説	五八三
神村氏の立候補	五四八	県議選挙結果	五六六	中頭郡甘藷作付	五八三
中頭郡議補欠に就て	五四八	中頭地租徴収成績	五六六	県農還元建議	五八三
中頭郡選挙は本日	五四九	県会議員一覽表	五六七	建議案提出	五八四
神村氏優勢	五四九	中頭郡の原山勝負	五六七	第十二回通常県会 第六日目	五八四
神村氏当選	五四九	砂糖品質調査	五六七	中頭の製糖講話	五八五
中頭郡農家数	五五〇	中頭の家畜数	五六八	当間幹事出馬	五八六
中頭郡各村原勝負	五五〇	中頭郡耕地反別	五六九	製糖場規則廃止建議案	五八六
中頭郡甘藷予想高	五五一	中頭郡立毛検査	五六九	当間氏と補欠選挙	五八六
中頭品評会	五五一	中頭郡の農家数	五七〇	二分分離原案通過(第九日目)	五八六
砂糖品質成績	五五二	中頭郡の金肥購入	五七一	特別撤廃建議案	五八七
製糖改良奨励	五五三			中頭県税完納	五八八
中頭郡地租割徴収成績	五五四				五八八



株券紛失公告  
帽子検査手数料軽減問題

政友派の運動

中頭郡有権者数

製糖法指導日割

県議補欠の候補

政友県議候補

広告（県会議員補欠候補者推薦）

彼れの言を聴け

広告（県会議員補欠候補者推薦）

大正7年

山城・天願両氏

中頭県議補欠両候補者

金口木舌

選挙の形勢

当間区長の運動

地方民の自覚

無線電話

青年の本領／中頭の補欠選挙

政友派の狼狽

無限の捏造

中頭県議有権者

虚偽の広告

県民の声／中頭郡有志より

金口木舌

泡瀬通信

中頭補欠選挙形勢

中頭の養蚕戸数

製糖実地指導

政界雜観

逐鹿雜観

山城氏当選

金口木舌

金口木舌

吾人の理想

驚くべき豚疫

採種田実地指導

各町村基本財産

五八九

五八九

五九〇

五九〇

五九一

五九一

五九一

五九二

五九二

五九三

五九三

五九四

五九四

五九五

五九五

五九六

五九六

五九七

五九七

五九八

五九八

五九九

五九九

六〇〇

六〇〇

六〇一

六〇一

六〇二

六〇二

六〇三

六〇三

六〇四

六〇四

六〇五

六〇五

六〇六

六〇八

中頭の品評会奨励  
中頭の戸数割額

甘蔗売買私見（九）

村会議員数

中頭郡の甘藷

中頭郡各村負担

町村会たより

中頭金肥購入高

中頭郡基本財産

中頭郡漁獲高

読谷山の製糖

村長・収入役増棒

色鉛筆

今期違反糖数

砂糖検査違反者

中頭の小作料

国庫支弁金支途

中頭地租割皆納

特制撤廃期成会

昨日の委員会

中頭の製糖成績

中頭稲作品評会

戸数割賦課改正に就て

中頭郡の生産力

中頭郡原勝負

大正8年

町村辞令

大正11年

農村の思ひ出

大正13年

町村議選挙結果  
周囲の静寂を破る町村長選挙戦

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

六一〇

大正14年

県会議員選挙

種牡豚検査

所得税調査員選挙会

正副議長選挙

組合を解散して

県農会に併合する

解散諮問撤回さる

県会議員宿所

今期原料販売成績

大正15年

本党政務調査

中頭の養蚕熱

昨年は塩の大豊作

貴衆両院議員、県会

議員等が県救済の協議

県農会協議会

長期講習問題で論戦の花咲く

昭和2年

きのふ招集された市町村長会

民政派沖繩県議

昭和3年

沖繩県下九ヶ町村の

町村長選挙を取消す

公告（無現責任内閣信用販売

購買利用組合変更）

三年期産糖予想

昭和4年

旧式の戦法で表面は実に平静

三名立候補

沖繩県議戦は来る十一日

六二三

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四

六二四



役馬利用農具	六七三	養蚕業組合議員当選者	六九〇	那覇煙草組合表彰式と総会	七〇三
蚕業共同経営改善競進会	六七四	芋作改良ノ指導日割変更	六九〇	労働者用綿製品配給方法改正	七〇四
町村便り	六七四	各町村農会今年度予算	六九〇	煙草小売人総会	七〇五
農山漁村行事	六七四	農山漁村行事	六九一	甘蔗中間苗圃	七〇五
農費補助交付	六七四	畜産練習生採用試験	六九一	近く助成金交付指令	七〇五
糖業経営改善部落へ	六七五	年々二十万反生産出来る	六九一	農山漁村行事	七〇五
簡易製茶所	六七五	県下の野生芭蕉	六九一	補助指導組合三七〇	七〇六
入糖高の筆頭は産連	六七五	中頭具志川村長選挙	六九二	市町村割当数を決定	七〇六
産連の臨時総会	六七七	具志川村字昆布茶の生産	六九二	国頭郡は成績不振	七〇八
堆肥舎建設組合補助	六七七	馬耕競犁会三郡で開催	六九二	公告(商業組合設立)	七〇九
砂糖樽二万個平良で製造	六七七	銀行無尽債務も朝廷にかけ得る	六九二	農業経営上に畜力利用促進	七〇九
自作農資金	六七七	甘蔗指導圃割当増加	六九四	農山漁村行事	七〇〇
去月末日の入糖高	六七八	畜産練習生合格者	六九四	製茶機械購入幹旋	七〇〇
分蜜原料搬入奨励	六七八	本県最初の競犁会	六九五	茶園管理ノ調査に係員を派遣	七〇〇
郡町村農会へ技術員補助	六七八	市町村の事務監査	六九五	各地の製糖終了近し	七〇一
具志川村が肥料共同購入	六七九	本部村を皮切りに	六九六	分蜜原料搬入高目標に達せず	七〇一
黒糖の品質島尻良好	六七九	市町村行財政監査	六九六	六地区にブロック結成	七〇二
多数の議員が天願氏を支持	六七九	種牡馬検査日割決定	六九六	決選投票で決る	七〇二
糖業統制補助金 原料搬入奨励金	六八〇	役馬二千頭の購買	六九七	沖縄県参事会員改選	七〇二
口張糖告発さる	六八〇	本期黒糖の品質著しく向上す	六九七	十四年度経更県指定町村	七〇二
買い手あまの沖繩馬大当り!	六八〇	甘蔗中間苗圃本年から減少	六九七	十月末日迄に七割以上配給	七〇三
具志川村長噂の三氏	六八一	既設茶園の業績を調査	六九八	甘蔗中間苗圃でエフ一〇八号種	七〇三
具志川村を経済更生村に指定陳情	六八一	那覇税務署管内酒類販売者	六九八	農繁閉期を利用し卅御労働力調整	七〇三
那覇税務署所得委員会	六八一	分蜜糖区域	六九八	今期の分蜜原料	七〇四
切干生産奨励に備へ芋の増産懇談会	六八一	蘭草指導圃ノ坪苜成績調査	六九九	千斤当平均八円九銭	七〇五
天願精米所落成	六八二	甘蔗植付指導	六九九	南風原、具志川製糖未了	七〇六
台湾行き種牝馬	六八二	具志川村村長報酬	六九九	遅延の損失莫大	七〇六
国営職業紹介所の実践で	六八三	砂糖品質の目標	六九九	甘蔗中間苗圃市町村	七〇六
職員七十名の大増員	六八三	七〇パーセントを期す	六九九	助成金割当決定	七〇六
肥料四十一万六千円	六八四	農業駐在技術員	七〇〇	肉牛肥育競進会	七〇七
町村別貸付け決定	六八四	甘蔗中間苗圃蔗苗配付	七〇〇	県農会の審査日割決定	七〇七
本県改良馬の生産増加	六八四	甘蔗作改善講習会	七〇〇	本県の移出牛増加	七〇七
畜産練習生申請	六八五	農事改良組合設立承認	七〇一	種牡豚の定期検査日割	七〇八
経済更生指定村	六八五	昭和14年	七〇一	経済更生計画で農家増収三割目標	七〇八
芋切干六万貫生産方針指導	六八五	沖繩たより	七〇一	町村便り	七〇九
分蜜糖原料搬入高調べ	六八六	干甘蔗生産の農事改良組合	七〇一	産組、商組別の市町村肥料割当	七〇九
自作農資金十三万一千円	六八七	二期春蚕繭収繭目標	七〇二	中頭畜産組合	七〇九
技術員総動員で芋作改良指導	六八七	重要農産物増産計画	七〇二	献納の幹旋牛著しく躍進	七〇〇
砂糖月報	六八八			町村便り	七〇〇
公告(沖繩砂糖問屋組合)	六八八			町村毎に計画樹て 甘蔗の栽培改善	七〇一

漸次普及する動力共同製糖場	七二二	町村便り	七三六	二期作水稻採種指導補助成	七四七
馬の生産増加	七二二	水稲一期作採種圃	七三六	新用途繭の生産処理補助	七四八
繭生産三十二万貫目標に	七二三	中頭郡養蚕業組合総会	七三七	貯蓄と桑園緑肥の優良組合を表彰	七四八
県の指導方針確立	七二三	製糖品質の向上百三十斤詰	七三七	繭増産補助	七四九
天願川(中頭具志川村)	七二五	県内市町村に商工更生委員	七三七	繭増産の共進会	七四九
を利用し大規模な耕地整理	七二五	昭和15年	七三七	県税納税成績優良町村表彰式	七四九
公告(保証責任天願信用販売購買	七二六	利用組合変更)	七二六	厩肥生産補助	七五〇
沖繩一の共同製糖場	七二六	物資配給続々行はる	七三八	重要農産物増産に補助交付	七五〇
県内織機台数	七二六	甘藷指導圃八百八十町	七三八	自給肥改良補助金を交付	七五〇
公告(無現責任具志川信用	七二七	町村便り	七三九	繭増産目標	七五一
販売購買利用組合変更)	七二七	中間苗圃設置補助	七三九	十五年度増産	七五一
労力四分の一減で	七二七	本年度設置の米穀増産補助	七三九	賞金一万九千円	七五一
桑葉が三割節約!	七二七	一万七千ヘクタールに	七三九	農山漁村行事	七五二
一般財政補助金	七二八	記念造林を施行す	七四〇	経革同盟陣容	七五二
市町村別交付額決定	七二八	本年七月執行の町村会議員選挙	七四〇	“国策甘藷”の増産に	七五二
既設茶園補助 三十四組合へ交付	七二八	十四年度自作農資金貸付審議	七四一	指導圃七百町設置	七五二
砂糖搬入争奪戦 産業団体に凱歌	七二八	各町村で製糖講習	七四一	全国町村長大会	七五三
間作緑肥奨励で肥料難を突破	七二九	町村便り	七四一	農村重要物資配給一元化	七五三
財政補助金減税額で	七三〇	堆肥舎建設の農家に補助交付	七四一	堆厩肥増産確保に督励部隊出動	七五三
二〇万円事変国債購入	七三〇	農業用の石油配給町村別割当高	七四二	本県移出牛躍騰	七五三
公告(保証責任中川信用	七三一	農山漁村行事	七四二	分与配付税の一分割当交付す	七五四
販売購買利用組合)	七三一	芭蕉布講習	七四二	繭増産奨励金	七五四
村農会に督励費与へ	七三一	畜舎改善の指導と	七四二	総務部長の総合監査	七五五
分蜜原料の搬入確保	七三一	糞尿回収の徹底を	七四三	八百万円の国民貯蓄	七五五
町村便り	七三一	目と耳から吹込み有畜農業奨励	七四三	辞令	七五五
具志川(中頭)産組	七三二	蘭草一旦歩収益六百円に上る	七四四	甘藷植付準備督励週間	七五六
三万樽を自家製造	七三二	茶園補助県が九団体に	七四四	大豆粕飼料各町村へ配給	七五六
辞令	七三二	官絵製茶共同施設補助	七四四	堆肥積込成績	七五六
砂糖、肥料等当面の重要問題	七三二	豚、家菟の講習と談話	七四四	町村議員選挙県の準備成る	七五六
三井物産が本県で	七三二	いも一億七千万貫	七四四	肅選汚す違反続出	七五七
アロートルト栽培	七三二	米は十五万石生産	七四五	名実共に産糖沖繩一に	七五七
蘭草増産販売調整協議会	七三三	馬産増産指導員	七四五	候補者、定員を突破し	七五七
百八号甘蔗は被害少ない	七三三	那覇市場の砂糖搬入	七四六	候補者、定員を突破し	七五七
県主催第一回製帽競技会	七三四	経済調査農家選奨	七四六	肉牛審査	七五八
県農会の肉牛肥育競技会	七三四	三ヶ年間県税完納の成績優良五ヶ村	七四六	料亭で饗応	七五八
天願産業組合生理改善	七三五	町村便り	七四七	具志川村田場の違反	七五九
製造人設置と黒糖品質の向上	七三五	本年の堆肥共進会	七四七	具志川村の違反	七五九
大豆採種法設置農会決定	七三五	桃原組合が優勝す	七四七	あす愈よ決戦/町村議選	七五九
補給金による戸数割減税	七三六		七四七	蔗の適期植付	七六〇
				町村会議員投票終る	七六〇

町村会議員当選者指名(中)  
 落選した上摘発される  
 具志川の違反  
 町村会議員投票成績  
 甘蔗中間苗圃設置  
 公民権を留保  
 肉牛審査けふは具志川で  
 後任助役争奪から  
 審議員を辻遊郭へ缶詰  
 産連緊急理事会で  
 けふ会長代行者選任か  
 全村日の丸下適期作業へ邁進(八)  
 米増産補助  
 県下中小商工業者業態改善  
 糖業躍進目ざし華々しいスタート  
 村会議員缶詰事件詳報  
 諸切機購入  
 本期黒糖品質  
 甘藷栽培優良部落調査  
 田植網購入に一本十円の助成を  
 中間蔗苗圃育成苗三千四百万本  
 沖縄だより  
 公告(保証責任沖縄県信用販売  
 購買利用組合連合会変更)  
 会社へ搬入せず全甘蔗  
 農民の手で黒糖に  
 養蚕上ぞく改良  
 功勞者表彰  
 種牡馬検査  
 与古田県議罰金五十円  
 中頭具志川村の村議缶詰事件  
 畜力利用伝習会各地で開催  
 振興費による畜牛購入  
 中頭具志川の贈収賄事件  
 市町村別分与税額決定  
 公告(中頭郡東部砂糖小売商業組合)  
 予算縮減市町村財政難  
 具志川村牛豚肥育組合へ補助  
 公告(中頭郡菓子工業組合)  
 本年度畜牛資金貸付額決定

市町村配付税  
 具志川村収入役推薦  
 公告(泡瀬織物雑貨小売商業組合)  
 既設茶園助成予定  
 有畜農業経営指定十四農家  
 蔗苗圃助成金を割当交付  
 本年度水稲一期指導圃  
 農業増産報国推進隊百名  
 第二期甘藷栽培  
 産組網を中心とし  
 農村運動を推進!  
 中頭三ヶ村が商業報国会設立  
 通常県会／返り初日  
 通常県会／第四日目  
 中頭三ヶ村商業報国会役員

**昭和16年**  
 全国農会技術員協議会出席者  
 灣米の端境期控へ節米強化  
 五ヶ所で馬市  
 具志川村会の纏れ  
 具志川村議ら12名に原判決  
 中頭畜組役員決る  
 三十九町村の地方分与税決る

**昭和17年**  
 県議立候補者  
 県議立候補者  
 開票の興奮  
 増産用塩特配  
 水稲二期作に力癩  
 本年度分与税の配付額決る  
 市町村家族手当補助金  
 公告(保証責任天願信用  
 販売購買利用組合)  
 強化する産業組合  
 お米の増産を競ふ

**昭和18年**  
 稲作指導講習  
 呷五万枚を沖縄県が増産に乗出す  
 水稲一期作指導圃決る  
 重要農作物  
 地方事務所参与委員決る  
 農地委員会  
 専任書記設置  
 堆厩肥共進会褒賞状授与  
 豚改良増殖講習  
 八千九百円の助成金  
 食糧供出優良の町村決る  
 甘藷実習圃指定校決る  
 米、甘藷増産へ  
 琉球表を増産  
 財政健全化計れ  
 甘藷植付へ  
 県下市町村吏員  
 臨時手当国庫補助決る  
 大豆増収期し農組単位の競作会  
 甘藷の植付指導  
 水稲に助成金  
 甘藷の平均を一掃  
 畦立植の実状調査  
 郷土放送  
 女子蚕業講習生合格者  
 製糖の熱管理講習  
 茶園品評会の受賞者  
 塩の増産が急務  
 褒賞授与式  
 畦立植で収穫倍加

**昭和19年**  
 農会の功勞者表彰  
 土地改良工事進捗不良町村督励  
 土地改良に総出動で敢闘  
 市町村の農業会  
 一握の肥料・米一俵



具志川市史 第二卷 新聞集成  
大正・昭和戦前編

平成五年六月一五日 印刷  
平成五年六月三〇日 発行

発行 具志川市教育委員会

沖繩県具志川市みどり町一―二―一  
電話 ○九八(九七四)三二二―一

編集 具志川市史編さん委員会

印刷

株式会社南西印刷  
沖繩県那覇市首里石嶺町一―二―七  
電話 ○九八(八八四)四三三―一